

# 見方を変える

『見方を変える』

松下幸之助

富士山は西からでも東からでも登れる。  
西の道が悪ければ東から登ればよい。東が険しければ西から登ればよい。  
道はいくつもある。時と場合に応じて、自在に道を変えればよいのである。

1つの道に執着すれば無理が出る。無理を通そうとすると行きづまる。  
動かない山を動かそうとするとするからである。  
そんなときは、山はそのままに身軽に自分の身体を動かせば、またそこに新しい道がひらけてくる。

何事も行きづまれば、まず自分のものの見方を変えることである。  
案外、人は無意識の中にも1つの見方に執して、他の見方のあることを忘れがちである。  
そして行きづまったと言う。行きづまらないまでも無理をしている。  
貧困はこんなところから生まれる。

われわれはもっと自在でありたい。自在にももの見方を変える心の広さを持ちたい。何事も1つに執すれば言行公正を欠く。

深刻な顔をする前に、ちょっと視野を変えてみるがよい。  
それで悪ければ、また見方を変えればよい。  
そのうちに、本当に正しい道がわかってくる。模索の本当の意味はここにある。  
そしてこれが出来る人には、行きづまりはない。

お互いにこの気持ちで、繁栄の道を探ってみたいものである。

(松下幸之助著 『道をひらく』より抜粋)